

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】平成29年2月16日(2017.2.16)

【公開番号】特開2015-139508(P2015-139508A)

【公開日】平成27年8月3日(2015.8.3)

【年通号数】公開・登録公報2015-049

【出願番号】特願2014-13074(P2014-13074)

【国際特許分類】

A 6 1 M 5/142 (2006.01)

A 6 1 M 5/148 (2006.01)

A 6 1 M 5/20 (2006.01)

【F I】

A 6 1 M 5/14 4 8 1

A 6 1 M 5/14 4 8 5 F

A 6 1 M 5/20

【手続補正書】

【提出日】平成29年1月6日(2017.1.6)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0016

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0016】

また、前記ポンプは、シリンジと当該シリンジ内を移動するピストンとを備えることが望ましい。

このようにすることで、流体が貯留された容器の容積を変化させて流体を流動させることができる。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0031

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0031】

ベース部材150には、窓部材160が固着される。窓部材160は、その中央に窓部161の開口を有する。窓部材160とベース部材150との間には、圧力伝達板170が配置される。圧力伝達板170の面積は、窓部161の開口面積よりも大きい。そのため、圧力伝達板170は、窓部161とベース部材150との間でその移動を制限される。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0048

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0048】

このような構成にすることによって、詰まり検出部100よりも下流側のカテーテル91で詰まりが生じた場合に、薄膜172が球体131を押す方向に変形する。薄膜172の上面には、薄板171が設けられていることから、球体131に対して薄板171が接触し、薄膜172の上下方向の変化を確実に伝達することができる。そして、下流側の力

テ - テル 9 1 における詰まりを確実に検出することができるようになる。